夕刊
臺灣日日新報
五月三十日

第二年度の皇奉運動
新企畫と構想を諮問
皇奉第二回中央參與會

皇民奉公會第二回中央參與會は三十日午前九時三十分より總督府正廳に於て開催、大東亞戰爭の赫々たる戰果裡に第二年目を迎へた皇民奉公運動が戰果の擴大に伴ひ益々使命の重加する本島の新事態に即應して愈々重要性を帶び此の重大なる第二年度の皇民奉公運動が如何なる企畫・構想の下に推進すべきやとの見地に基き根本方策を諮問事項として六百萬全島民の敢奮なる赤誠心を反映して嚴肅に開かれた

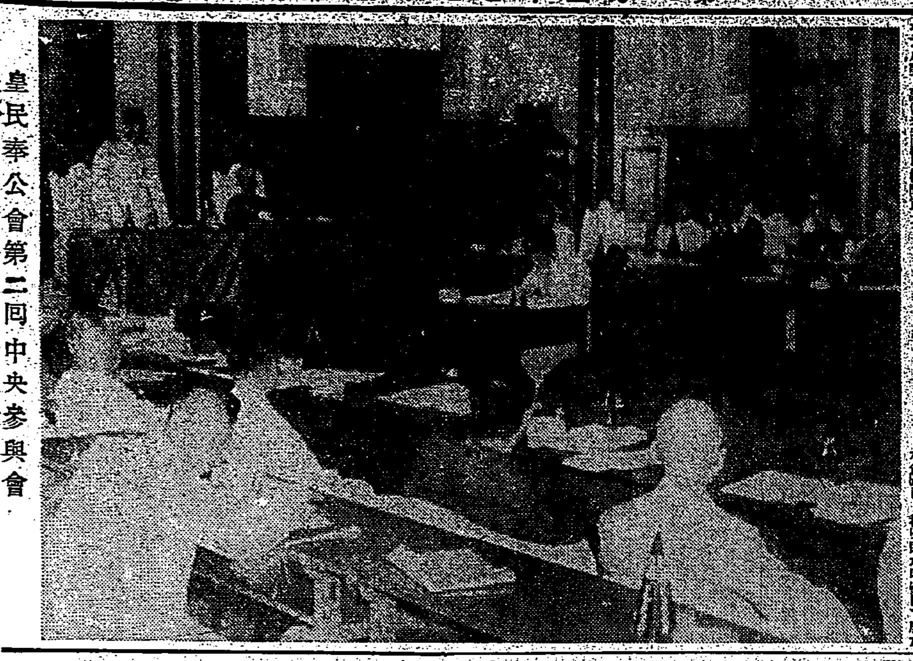
特に軍部側より安藤軍司令官、樋口參謀長、伊藤海軍武官が臨席、本部側よりは總裁長谷川總督を初め齋藤本部長、山本事務總長並に石井副部長、森部他方、田中訓練、林生活、大澤宣傳各部長、隈部厚生各參與列席、中央參與四十三名中十八名出席し嚴かなる國民儀禮に次いで長谷川總裁は別掲の如く力強き訓示を爲し樋口參謀長は『日本精神』と題し日本精神は古より神國の精神、武士道、大和心、大和魂それより國民精神となり日本精神と表現される際に成つた事を說き日本精神とは決して單に古に歸る保守的なものでなく積極性を持ち之が歷史を見るに六百五十年每に政治的、思想的、軍事的文化的大變革に逢ひ益々發揚されるに至つた即ち第一期は[illegible]垂仁の朝、第二期は大化の新政、第三期武家政治の勃興、而して第四期が明治維新であり明治維新は日清、日露の兩役更に滿洲事變、支那事變より新に大東亞戰爭に至る迄明治大維新は尙繼續されて居ると謂ふべきであり而して大東亞戰に勝ち拔く爲に銃後に於ける皇民奉公運動の完璧を期せよと強調次いで伊藤海軍武官は最近の戰況に就き說明を爲した後五月に入つてよりの敵潜水艦の行動を詳細に述べ帝國海軍としては[illegible]潜水艦擊滅の準備に成り着々その活動を開始してゐるのであるが此の時局の戰爭國民の一人たりとも無意識的にもスパイに利用され得る隙を與へ無く防諜に對して同く注意し必勝の信念を堅持して戰爭完遂に邁進すべきであると結び之に及ぶ點にまで及び特に防諜に就き島民の自覺を要請した、斯くて十五分間休憩十時四十分再開、齋藤總務長官は中央本部長として別掲の如き挨拶を爲し續いて總務長官の立場に於て一言挨拶の意味から

長官閣下の命に依り比島派遣の特設勞務奉公團並に高砂義勇隊を二週間に渡り訪問し昨日歸りました、最高指揮官本間閣下を始め幕僚の方々も豪洲とは關係深き人々が中心になりそれ等の人々に心からの感謝を披瀝して來ました、特設勞務奉公團員として現地で活動されて居る狀況は非常なるもので本間閣下以下之等青年の指揮に當つて居る人々からは何れも感謝の辭がありましたとの挨拶を述べ、次いで山本事務總長の別掲の如き一ケ年間の運動經過の報告があり終つて中央本部長[illegible]議事に移つた岩田參與より皇軍將士の勞苦に對する感謝電報の緊急動議を提案萬場異議なく賛成、文案その他は議長一任となり愈々各參與の答申に入り

△張參生參與　皇民奉公運動の完璧の爲過去一年間推進員等中堅層の組織錬成の擴充強化及び國民運動の組織實施等に就き具體的方法を擧げて要望

△堀内次雄參與　南方進出者の資質向上に就て醫學者の立場より日本人と西洋人の體質比較等専門的な意見を述べ、熱帶醫學の特殊研究と醫學者の奉公に就き種々意見を開陳

斯くて正午齋藤議長は岩田參與より緊急動議に依る左記皇軍將士への感謝の電文を朗讀萬場一致之を可決し休憩となり出席者一同は總督官邸における長谷川總督招待の午餐會に臨み午後一時半再開した



皇民奉公會第二回中央參與會

陸鷲衢州攻擊

【○○基地二十九日發同盟】我が陸軍航空部隊の精鋭は二十八日大擧出動、地上部隊の金華、蘭谿攻略部隊に協力すると共に一部を以つて衢州を攻擊、軍事施設を爆碎した

天機御機嫌奉伺の記帳
褚特派大使

【東京電話同盟】國民政府訪日特派大使褚民誼外交部長は入京第二日の三十日午前八時四十分宿舍帝國ホテル發、副使[illegible]將、海軍部長任[illegible]大將以下隨員を伴ひ宮中に參內、天機並に御機嫌奉伺の記帳をなし引續き大宮御所並に各宮家に伺候御機嫌奉伺の記帳を行つた、午後は二時から明治神宮、靖國神社に參拜、征戰に協力の誓ひを捧げた

南方圏へ率先協力
皇奉運動浸透徹底
總裁訓示

總裁訓示（大要）

本日、第二回中央參與會を開くに當り、皇民奉公會總裁として所懷の一端を申述べ、多々益々各位の御協力を賜はりたいと存ずる

昨年末、大東亞戰爭勃發直後、緊急に御會同を願ひ、第一回奉公委員會並に臨時參與會を開催致し非常時下に處する島民實踐の方途につき御決議を願つた事は御承知の通りである、然るに御來半歲を經るに過ぎぬが、御稜威の下皇軍の獲得せる戰果は世界戰史にも比類を見ない赫々たるもので米英勢力は殆ど完全に東亞から一掃された、何とも感激に堪へぬ次第である、斯くてこの半歲の間に東亞の大勢は世界情勢と共に茲に一變せんとして參つたのである、即ち嘗て我國が企圖し、我國民が口にして居た大東亞共榮圈なるものは其の輪廓を明確にし、世界新秩序また着々其の確立を見んとして居る

御稜威の恭さには一億國民ただ襟を正しうして感激いたす外ないのである

我が臺灣は南方に近く、南方圏への協力に就ても全島民に率先し本島住民として日頃の熱と意氣を示すは勿論、凡ての知識經驗を全面的に活用しつつ御奉公致されねばならぬ次第と考へる、其ためには本島住民は愈々一致團結、總親和の本領を發揮し、その總力を擧げて行かねばならぬ

この大目的を果して行く爲皇民奉公運動は、本島民衆の總てに隈なく浸透、徹底してそれが速かに實踐行動となつて現はれねばならぬ然るに本島に於ける教育文化の浸潤度は頗る大幅であり容易に呑み込める部面と然らざる側面との兩端があり、同一の標準又は方策を以て奉公運動を推進しにくい事情があり、非常に複雜多岐に亙つて居る、是等の特殊事情に付いても篤と御審議を煩はしたい、諮問事項として掲げてある國防、經濟、文化、生活等の各部面に亙り率直なる見解を披瀝され奉公運動推進上最も大切なる企畫並に今後の重點等に就いても平素の卓拔なる識見と多年の豐富なる經驗とに基き何卒建設的にして具體的な答申を寄せられんことを切望する以上を以て訓示とする

新方途へ活潑行動
齋藤中央本部長挨拶

齋藤中央本部長挨拶（要旨）

皇民奉公運動も大東亞戰爭の華々しい戰捷裡に第二年に入つた各位の一方ならぬ御協力により今までのところ大體所期の目的を達したかに考へる、熱心なる各位の御努力に對し此機會に深甚なる敬意を表します、然しながら皇民奉公運動初年度の成果は、大體の理念が一般に普及されたといふ程度であつて、これが本島の下部組織にまで浸透し、六百萬人の實踐行動となつて現はれて來るといふ迄には、更に新なる企畫と大なる努力とを必要とすることと多言を要しない、尚時局の推移と大東亞戰爭の長期化につれ本島大衆の日常生活や氣分感情等についても、十分の思ひ遣りがなされねばならぬのであつて、官と民との別なく擧げて一家の理念から、互に相倚り相扶けて敢然力行、微笑の裡に大東亞戰爭を闘ひ拔いてゆく底力を培はねばならぬと信ずる

茲に一年間の體驗と試練とを基礎とし、此際更に篤と思ひを練り新規定の下に活潑なる行動を起さねばならぬ、從て名案妙策を必要とするので御腹藏なく意見の開陳を願ひたい、各位は皇民奉公運動規約により中央參與として總裁の諮問に應じ重要事項を審議さるる立場に在り謂はば中央本部の最高智能陣營の方々である、從つて皇民奉公運動の進むべき方途並に新なる企畫構想等についても諮問事項を通じて率直に御示し下さることを念願に堪へぬ

陸海軍に感謝電報

感謝電報

宣戰大東亞地域より米英勢力を驅逐以來未だ半歲に滿たざるに[illegible]大東亞共榮圏の建設に邁進しつつある大輪郭を顯現し得たるは一に御稜威の下陸海軍將士各位御奮戰の結果にして感激の至りに堪へず、島民は今や愈々其の使命に邁進南方協力に一意精進しつつあり、茲に皇民奉公會中央參與會開催に當り謹んで感謝を捧げ御武運の長久を祈る

皇民奉公會中央參與會議長　齋藤樹

陸軍大臣閣下
海軍大臣閣下
參謀總長閣下
軍令部總長閣下
比島方面最高指揮官閣下
南方方面最高指揮官閣下
支那派遣軍總司令官閣下
南方海軍部隊指揮官閣下

南方への熱意昂揚
皇奉運動大成期す
事務總長說明

山本事務總長說明（要旨）

皇民奉公運動を進めて行くに當つて實踐すべき事柄として高く揭げた旗印は、御承知の如く、第一訓練、第二增産、第三銃後生活の整備で是等の實踐項目に付ては昨年五月第一回中央參與會に於て御審議を願つたものである爾來この三大目標の達成に向つて一路邁進し、夫々若干の效果を擧げ得たと信ずる

殊に訓練　に於ては各民各位の盛り上る熱意と相まつて相率ゐて訓練を受けんとする氣分を釀成し、[illegible]訓練のための道場には引續き滿員といふ盛況である、而もこの訓練が、奉公運動の推進と相俟ち本島青年層の間に溌剌たる皇民意識を浸透せしめたことは特筆大書すべきである、即ちこの熱意は期せずして陸軍特別志願者となり、奉公運動に率先挺身する男女推進員となり、或は産業戰士に、拓南農業戰士に、拓南工業戰士に、勞務奉公團員に、特設勞務奉公團員として第一線に乘り出さんとする[illegible]

南方協力　の方面に向けしむるならば、愈々[illegible]の士氣昂揚を見ることは必定である、この見透しにより皇民奉公會中央本部に於ては、今後南方への御奉公と睨み合せて産業戰士養成所並に海洋訓練所等を施設し有爲なる青年の訓練に後力を注いでゐる、本島の未婚女子にも[illegible]として自らの力に依つて起ち上り、國家の大事に協力しつつ、本島在住者の士氣昂揚に努めて來たことも亦、見逃し得ない事實である、この美風は[illegible]として農村婦女子の間にも浸透し、多年の因襲を破つて田畑に出て勞作に從ひ或は勞務の供出ともなり、[illegible]

銃後生活　の整備に付ては[illegible]

總親和を　[illegible]

翼政の整備
けふ有志代議士會開催

【東京電話同盟】翼賛政治會は[illegible]

院内役員會

【東京電話同盟】翼賛政治會は二十九日午後三時より[illegible]

閣僚、總務懇談會

【東京電話同盟】[illegible]

雲南進入の我精銳
重慶軍を掃蕩戰果擴大

【ビルマ前線○○三十日發同盟】去る二十四日以來雲南省怒江以東の重慶軍敗殘部隊三千は怒江を渡河しジャングル地帶に潜入、執拗なゲリラ戰に出て來たがわが部隊はこれを掃蕩着々戰果を擧げてゐる、なほミイトキーナ北方地區に彷徨する敗殘重慶軍の掃蕩は全く終了しカレワ地區も同樣既に敵影を見ない

敗走の共産軍
井戸に毒藥

【山西省前線○○三十日發同盟】皇軍の猛烈なる攻擊の前に四分五裂となつた共産軍はまたもや破れかぶれ最後の奥の手を出し[illegible]約三十粁の[illegible]村附近に逃げ込んだ敵は卑怯にも附近人家の井戸に毒藥を投じてわが進擊を阻まんとしたがわが軍は忽ちこれを發見一兵も損せず更に猛攻を續けてゐる

宜昌方面蠢動の
敵を徹底的剿滅

【漢口二十九日發同盟】宜昌、江口、大布街（沙市上流約三十粁）[illegible]

峻極關の軍事
施設を覆滅

【晉南前線○○二十九日發同盟】[illegible]

梁溝地方作戰戰果

【晉南前線○○二十九日發同盟】[illegible]

モレスビー連爆
第五十八回目

【リスボン二十九日發同盟】メルボルン來電によれば日本航空部隊のポートモレスビー空襲は二十九日[illegible]

浙江敵の損害甚大
支離滅裂の顧祝同軍

【南京三十日發同盟】[illegible]

伊首相とも會談

[illegible]

ヒトラー總統
ボースを引見

【ベルリン二十九日發同盟】[illegible]

南前朝鮮總督
六日東上

【京城電話同盟】南前朝鮮總督は來る六日京城發東上十一日[illegible]

爪哇二精油所復舊

【スラバヤ二十九日發同盟】[illegible]

墨國戰爭狀態通告
戰爭屋米國の干渉の結果
冷靜なる獨伊

【ブエノスアイレス二十九日發同盟】[illegible]

宣言案内容

[illegible]

大統領強權を要請

【リスボン二十九日發同盟】[illegible]

廣東省非占領地區水禍甚大

【廣東二十九日發同盟】[illegible]

北氷洋に戰果擴大
獨軍司令部戰況發表

【ベルリン二十九日發同盟】[illegible]

人事

[illegible]

きづ
たむし
おでき

ハリバ軟膏

こぶれて擦り傷い外傷に特に效果的…短時日で肉芽と表皮とが新生されます。

五十錢・一圓・六圓五十錢

＜腦溢血・狭心症・心臟麻痺＞
ハセスロール

講談倶樂部
六月號
定價六十錢

待望の大傑作長篇戲曲いよいよ發表
眞山青果
原田甲斐

長篇劇 秦山とお婉　田岡典夫
時代小說 町の兵隊さん　牧野吉晴
物語日本史 春待つ國　大佛次郎
源頼朝と義經　菊池寛
現代小說 豚　深山純

攻城血戰記 マレー方面軍參謀
風土記 水戶侍　[illegible]
坂口八段對大和久六段
現代小說 高鳴る太平洋　木村莊十
時代小說 城の顏證文　大倉燁子
大日本雄辯會講談社

日の出
六月號

陸軍落下傘部隊の實戰記
殊勳の德永中尉と對談
インドはどうなるか　北田正元
スエズ運河とパナマ運河
赤道下の艦内生活
敵前架橋物語
食糧難の歐洲現狀

小說 眞珠　高田保
小說 大いなる父　加藤武雄
戲曲 ブキテマ高地　菊田一夫
小說 日本の女の魂　堤千代
小說 ベンガルの陽　大平陽介
小說 善通寺物語　摂津茂和
小說 ジャガタラお春　渡邊啓助
少說 生活の樹　藤澤桓夫

海軍白衣の勇士座談會
七勇士出席
映畫撮影の感激
從軍作家の戰線便り
定價五拾錢
新潮社

譚海
六月号

二大折込附錄
（第一）大東亞戰戰域圖
（第二）共榮圏の資源を語る

科學と國防
燒津の町を訪ねて
印度洋の話題
爆彈の投下

未來戰と兵器
木船の構造めぐり
名將の横顔
潜水艦と釣りの秘
夜明のセイロン島
ベンガル灣突入

傑作小說
現代感激 厚生船大興丸　田郷虎雄
海洋冒險 神兵東より來る　横溝正史
時代科學 寳暦三奇人　野村胡堂

價三十錢
東京日本橋 博文館

艇内は宛ら蒸風呂 月に廿日は罐詰食

猛勇我が驅潜艇の苦心談

【東京電話】ペナンにて二十九日上田海軍報道班員發―廣大なる水域を制壓し海に陸に空に展げられた赫々たる大戰果の蔭には常に新将兵の出動を偵察しつつ、或は前線の先導となつて哨戒、偵察、護送等の任に當り或は敵潜水艦の[illegible]等々大任務に服しながら默々として人知れぬ勞苦を重ねてゐる驅潜艇の地味な活躍のあることを閑却することは出來ない、開戰以來の[illegible]に[illegible]千浬に達し[illegible]月ぶりで○○基地に[illegible]した我○驅潜艇を訪問し苦心談を聞いた、以下はその談である

何と云つても忘れることの出來ないのはコタバルの戰鬪だ、わが[illegible]に襲ひかかつて來る敵[illegible]の[illegible]を[illegible]に

戰弄 されるわが艇の上に[illegible]の雨を降らせて來た、[illegible]められる[illegible]だつた、わが艇の[illegible]手の顔がはつきりと[illegible]は[illegible]の命を守り過る心を抑へて[illegible]たが[illegible]の[illegible]火を吐いて[illegible]に落ちて行くのを確認した時の[illegible]は一寸言葉では表現出來ない、[illegible]ルの戰鬪だつた、[illegible]とした[illegible]のため本艇を直[illegible]接艦に近づけることが出來ない、[illegible]已むなくカッターを下した、[illegible]と[illegible]の中での救助作業は[illegible]に近い決死[illegible]だつた一歩を誤れば[illegible]に向つたカッター[illegible]

た、カッターを[illegible]り出した[illegible]下[illegible]一同は心に[illegible]の加護を祈りながら激浪の中に[illegible]下に必死の救助作業を續けるカッターを手に汗して[illegible]した、[illegible]我々の苦心は[illegible]られ○○名の[illegible]を[illegible]本艇に[illegible]することが出來た、この救助作業の成功は[illegible]驅潜艇ともいふべきだらう、驅潜艇は[illegible]分にも[illegible]が小さいので[illegible]が[illegible]しく

暴風 雨にでも[illegible]ものならどんなに船に強いものでも[illegible]は[illegible]に[illegible]を[illegible]らない、[illegible]に[illegible]れた椅子が次のがぶりで又[illegible]りでに元のやうに起ると云つても[illegible]しないであらう、この[illegible]ひの苦しさは[illegible]の[illegible]でなければ[illegible]らない、[illegible]ぬよりも苦しい[illegible]

日間も四日間も水ばかりで過ごしても各自の任務を遂行してゐる、[illegible]に出れば上甲板まで[illegible]れるので常に[illegible]は[illegible]切り[illegible]内は蒸風呂のやうに[illegible]しい、冷[illegible]や生鮮食品の[illegible]もないので月の三分の二は罐詰食で[illegible]しなければならない、こんな生活で[illegible]も誰一人[illegible]を吐くものもなくま[illegible]だ病人一人出てない、スコールだけはわれわれに水浴の機會を與へ[illegible]スコールに[illegible]はなければ二十日も一月も水浴が出來ない「それつスコールが來るぞ」と[illegible]上甲板に上り[illegible]になつて雨を浴びる時の氣持よさ、時には[illegible]に[illegible]を[illegible]つて待つてゐると[illegible]のスコールが[illegible]を[illegible]けて[illegible]ぎることがあるがその時は[illegible]

石鹸 が乾いて[illegible]

り天を睨んで泣きたい[illegible]だ、[illegible]が狭く乗員が少ないのでそこには他の[illegible]には見られぬ和やかな家[illegible]的な[illegible]が[illegible]されてゐることは「驅潜艇ならでは」としみじみ思ふことがよくある、夕暮れ時[illegible]く[illegible]の[illegible]から解放されて上甲板に[illegible]まり[illegible]に過す一時の樂しさは[illegible]なものだ、[illegible]の苦勞は確かに[illegible]以上のものがある、しかしわれらに與へられた任務、小粒でも作戰遂行上重大な役割を[illegible]つてゐることを自覺する時一切の勞苦を[illegible]して光榮に勇躍することが出來るのだ、[illegible]でも[illegible]する[illegible]潜水艦に[illegible]正面からぶつかつて攻[illegible]するのが驅潜艇の任務だ、その[illegible]を思ふと自ら[illegible]が[illegible]き上つて來る

北白川宮樣御上陸記念日

あす記念祭を執行

けふ御遺跡地巡り繼走開會式

あす三十一日は[illegible]の宮として、ここ臺灣神社に[illegible]まります北白川宮能久親王が[illegible]くも金枝玉葉の御身を以て大命を奉じ[illegible]近衛師團の[illegible]を率ゐて本島[illegible]の第[illegible]に就かせられ[illegible]部[illegible]に御上陸[illegible]された[illegible]を記念[illegible]日であり、當日午前十一時から現地で[illegible]官民參列の下に[illegible]かな御上陸記念祭がいとなまれるが、またこの日を[illegible]し臺北州主催の[illegible]上陸地點から臺北まで御遺跡地巡り繼走大會が[illegible]行される、大會に先立ち三十日午後一時から各市郡代表選手八十四名は[illegible]の白[illegible]に[illegible]東も[illegible]しく[illegible]神社大前に[illegible]ひし[illegible]んなる[illegible]式が[illegible]はれた、[illegible]州から三輪知事、村田教育課長が[illegible]、[illegible]としてこの[illegible]に[illegible]いるべく[illegible]けて來た晴れの選手たちは、必勝の[illegible]物[illegible]く[illegible]前に[illegible]列を[illegible]と[illegible]ちに[illegible]式[illegible]によつて一同身も心も[illegible]めたのち三輪知事、[illegible]手[illegible]代の玉串[illegible]あつて[illegible]臺北市[illegible]から[illegible]の[illegible]に次で三輪知事は[illegible]を前にして本島[illegible]以來茲に四十有八年、[illegible]を以てし[illegible]なる日本文化の[illegible]は[illegible]島民大衆は[illegible]に皇國臣民たるの幸福と光榮とを[illegible]するに至り、今や本島は帝國南進の[illegible]として重大なる[illegible]を自荷し得るに至つたのは[illegible]能久親王の[illegible]によるものである

とて本大會の意義を[illegible]明し大いに[illegible]選手一同は[illegible]人の[illegible]を[illegible]げて[illegible]高らかに力強い[illegible]を[illegible]た、それより選手は七區に[illegible]れ[illegible]に夫[illegible]中[illegible]に向け[illegible]出發し、[illegible]らせつつあすの大會に待

畏し建國忠靈廟に 高松宮殿下御參拜

【[illegible]】[illegible]宮[illegible]下[illegible]一[illegible]間[illegible]を[illegible]げさせられた、[illegible]御[illegible]に[illegible]された[illegible]の[illegible]に[illegible]二時四十五分[illegible]所[illegible]の[illegible]なる[illegible]の[illegible]士[illegible]も[illegible]下の[illegible]を[illegible]つた二萬八千[illegible]を[illegible]ぐ

を奉祀する建國忠靈廟に進ませられ親しく御參拜遊ばされた、殿下には[illegible]二時二十五分[illegible]を[illegible]らせられた

海軍報道班員實戰座談會 ③

海洋の王"航空母艦"

印度洋上・連日猛訓の航空兵

問 牧島さん航空母艦に同乘の話をどうぞ

牧島 實に航空母艦の兵隊のはり切り方と云ふのは一寸天下無[illegible]ものなしで、太平洋と印度洋の王[illegible]ですね、本當に傍若無人に荒し廻るのですから、しかしあれに乘つて居る人で[illegible]が沈む所を見た人は一人も居ない、みんな飛行機が先へ行つてどんどん片付けてしまふので…（笑聲）[illegible]が沈むのをたつた一度見たことがある、[illegible]の作戰の時にどうしたのか[illegible]上の[illegible]が[illegible]つてこつちの[illegible]の中に入つて來た、その時は飛行機なんか[illegible]に大砲で沈めたのですがその時見ただけで後は[illegible]ど見たことがない、とにかくあちらこちらに行つて居る[illegible]は日本一の[illegible]だと[illegible]とか[illegible]の[illegible]なんか[illegible]ばかりです、[illegible]兵を[illegible]する時は航空母艦の甲板だけの大きさを白い[illegible]で

上へ置いてそこへ降りる[illegible]をやるのださうです、一[illegible]に[illegible]を取つて居つて[illegible]したものだけを[illegible]つてそれから[illegible]な[illegible]をしてさうして[illegible]に出すのださうです、[illegible]でも一番いいのが來てゐるのでせう、着艦する時や[illegible]れる時を見てゐるとそう[illegible]くて[illegible]くて初めのうち

ろ[illegible]と無[illegible]を[illegible]りにやるのですから母艦から飛び上つてぐるぐる[illegible]つて又[illegible]つて來て降りると云ふのは大變な[illegible]になるらしいですね、それをやつてそれから又[illegible]しませうと云ふのですから[illegible]な[illegible]でないと出來ないらしいです

問 夜間[illegible]はやりましたか

牧島 夜間の作戰は[illegible]の行つた時はやらなかつた、然し夜間も平氣でやるらしいですね、それで[illegible]をして[illegible]ですね

問 さういふ所で何時間位[illegible]のですか

とは

牧島 とにかく[illegible]いことです、（笑聲）或る時[illegible]長が「お前何時も上の方に居て涼しい[illegible]をしてゐるたいで[illegible]に入つて見ろ」と云ふので入つて見た、タラップの[illegible]が[illegible]れないので手袋をはめて行くのですが下に行くにつれて[illegible]くなつて來る、外は三十[illegible]前後です

けれどもあの[illegible]は五十[illegible]位になつてゐる、[illegible]いのを通り[illegible]して[illegible]の[illegible]はばらばらする、[illegible]を引いてゐる所から一寸も外れないでずばりとうまく降りる、一寸外れたらもうがちやんと行くのですからね、[illegible]に[illegible]の[illegible]上で[illegible]したのを[illegible]つて來たら先づ[illegible]つて降りて來るのは[illegible]部の何パーセント位しかないさうですね、[illegible]び出したら[illegible]水と[illegible]しか見えない、[illegible]

[illegible]の[illegible]で[illegible]にする、[illegible]かる[illegible]の[illegible]ですからね[illegible]

[illegible]が[illegible]つて來る、それツといふので外へ[illegible]げ[illegible]頭から水を[illegible]るうちにやうやく[illegible]が下つて來るのです

問 今の[illegible]に[illegible]して潜水艦[illegible]の[illegible]を

山岡 [illegible]の暑さそれが潜水艦全體の[illegible]だと思へば間違ひない（笑聲）とにかく印度洋を[illegible]つた時にはみんなの流す汗が司令塔の下に溜つたと云ふのです、それは少し[illegible]だらうと思つてゐたが[illegible]ズックの[illegible]の内に汗がぬるぬるに溜つて下に向けるとたくたく[illegible]れます、[illegible]は[illegible]た方へ乘せて貰つたから[illegible]つた、もつときつい方を[illegible]したら[illegible]して[illegible]に[illegible]つたことだらうと思ひます、三十分[illegible]つと[illegible]に苦しくなります、頭が痛くなつて第一に頭[illegible]して來る、それから[illegible]が苦しくなつて來るのがはつきり[illegible]ります初めから苦しいものだと云ふ[illegible]もあるからでせう、けれども[illegible]分位から苦しくなつて二、三[illegible]間位になると何とかしてくれぬかと[illegible]ふやうになりますね

[illegible] さうですね、潜水艦は[illegible]

[illegible]と云ふ[illegible]がありましたが[illegible]の方では[illegible]があつて、その下にオーソリテーがあり、その下に「中」ソリテーがあり、その下に「小」ソリテーがあるのです、オーソリテーの「オー」を「大」に取つて……それから一番[illegible]です、[illegible]と云ふたら大したものです、さつき[illegible]の話がありましたが、あれは吉良[illegible]と云ふ人が一番初めにやつた、大正十一年に[illegible]の[illegible]上でイギリスの[illegible]が來てやつた、そのイギリスの[illegible]がやつて見せてそれから吉良[illegible]がやつたがやり損つて[illegible]んだ、丁度東郷元帥がそれを見て居られたが[illegible]した、もう一度とやる元氣がないだらうと思つたら飛行機を換へて又やる、イギリス人に出來ることが日本人に出來ないことはない」といつて頭[illegible]やつてのけた、これが本當の[illegible]です、それと比べてアメリカのアジア[illegible]の[illegible]のハートと云ふのは潜水艦の本當のオーソリテーですが、これが一體何をやつてゐるのかさつぱり[illegible]と面白い話です

問 [illegible]が來たことはないですか

牧島 いや來たです、[illegible]面白かつたです、向ふから[illegible]がPBYと云ふのがやつて來た、それを見付けまして[illegible]に出掛けて行つたですよ、それから[illegible]に向つてどんどんやつて來る、[illegible]

[illegible]

あつてその[illegible]へ頭を突込んだ、向ふではうまく隠れたと思つたらしいが[illegible]の切れ目から尻の方が出てゐる、そこでこちらの方では[illegible]の切れ目に[illegible]つて居つた、丁度[illegible]して尻尾を[illegible]と云ふ譯です、それを[illegible]しましてそれから[illegible]が拾ひに行つたら九人乘つてゐたその内三人が[illegible]死、三人[illegible]人[illegible]だつた、それで六人拾ひ上げて來たのです、それが面白いことに「何でこつちに入つて來た」と云つたら「[illegible]と[illegible]とが合併して[illegible]て來たと思つたので[illegible]へにやつて來た」と云ふのですが（笑聲）、[illegible]のですね、三人がカナダの兵隊で三人がイギリスのR・A・Fなんですからね、そんなことをやつて居るのですからね、[illegible]の[illegible]のだつたさうです、[illegible]に出た[illegible]な[illegible]に日本[illegible]が[illegible]つたのか」と云つたら「[illegible]」と云ふのです、大[illegible]は[illegible]

ケープタウンを[illegible]つてそれから印度へ來たのださうです、それでとにかく[illegible]代で乘つてゐるから[illegible]うと云ふので[illegible]つてゐるのです出る時なんかもはつきりした命令を受けて來ないらしいですね、[illegible]んやりしてゐるのですよ、味方だと思つて[illegible]んできたと云ふのですからね

問 小田さん[illegible]の[illegible]民の[illegible]なものはどうでしたか

小田 [illegible]にマレーを持つてありましてね、我々が自動車で[illegible]を[illegible]りに行くとみんな自動車の内へ[illegible]んなんか[illegible]り込むやうなわけでして[illegible]とか野菜を[illegible]つてやつてゐましたがそれを[illegible]んでゐました、[illegible]する時なんか[illegible]が[illegible]女なんかが[illegible]やつて[illegible]の内に[illegible]して[illegible]を[illegible]つて[illegible]

（[illegible]）

朝鮮海峽に隧道

小磯新朝鮮總督語る

【東京電話】南大將の後をうけて大東亞戰下朝鮮統治の大任を背負つて新總督になつた小磯國昭大將は二十九日午後四時半の[illegible]を終へ[illegible]大將の[illegible]を[illegible]けてから[illegible]と共に[illegible]民、田中[illegible]と共にカメラにはいつた

今回はからずも大命を[illegible]け[illegible]朝鮮に[illegible]へない、私は[illegible]軍司令官として朝鮮に[illegible]任し又拓務大臣として外地行政に[illegible]つた關係から朝鮮統治に[illegible]しては[illegible]より多少の[illegible]を[illegible]してゐるが、今日はまだお話すべき時

期ではない、統治方針は[illegible]つの方針を[illegible]するものも[illegible]も知ら[illegible]かつたよ、ハッハッ……[illegible]と[illegible]しさうに[illegible]つてぽつりぽつり話し出した、[illegible]の話に油が乘ると[illegible]の[illegible]ひ先へその[illegible]にも[illegible]目がきらりと光つて來る、以下[illegible]の談

朝鮮といつても私には全く[illegible]の[illegible]に行つたり來たりしてゐる[illegible]持だ、昨年[illegible]洲旅行の歸途に立寄つて南總督とじつくり話をした、[illegible]は日本民族と同じだ南總督が內鮮一體を呼ばれたのも[illegible]に[illegible]に非ずだ、永い間半島の政治に[illegible]れて來た[illegible]し[illegible]々と[illegible]つたものがあり、それがいいなれなどれを[illegible]して更に大和民族と一體となつて行く[illegible]ち一同化これが統治の根本だと[illegible]つて內鮮[illegible]と一體となつて大東亞共榮圈を作りあげねばならぬ、朝鮮の[illegible]については[illegible]的[illegible]もあり、日滿[illegible]の[illegible]をも[illegible]する[illegible]にしても朝鮮の[illegible]の[illegible]化は[illegible]である、[illegible]からは朝鮮海峽に[illegible]

にトンネルを掘ればよい譯だ、これは私が大正八、九年に計畫したが[illegible]なかつたが今日[illegible]ひものでしたが當時の計畫では二十年いうちに作りあげたいのだ

ビルマの邦人にも郵便物が出せます

【東京電話】比島、マレー及びジャバなど南方占領地に[illegible]する邦人宛郵便物の取扱ひは既に[illegible]されてゐるが、來る六月一日からビルマに[illegible]する邦人に[illegible]物が出せるやうになつた、取扱ひ郵便物の種類は[illegible]と[illegible]に限られ[illegible]その他は[illegible]び小包[illegible]の[illegible]便と同じだが、この郵便[illegible]は「ラングーン[illegible]便局氣付」と明記しなければならない、なほこの[illegible]は[illegible]の[illegible]を防ぐ上の[illegible]に記載しないやう注意を[illegible]する

高商對農專ラグビー戰

[illegible]三十一日午後[illegible]時半から[illegible]されるラグビー[illegible]

臺北州下中等 水上競技大會

六月十四日開催

第十四回臺北州下中等學校水上競技大會は[illegible]臺北支部の主催で六月十四日午前八時三十分から臺北市[illegible]町の水泳場で[illegible]されることになつた、[illegible]は左の通り

男子の部 自由形（一百、二百、四百、八百）背泳（一百、二百）平泳（一百、二百）[illegible]泳（一百、二百）[illegible]

女子の部 自由形（五十、一百、二百、四百）平泳（五十、二百）背泳（一百、二百）[illegible]（八百）

基隆高砂青年 會幹部錬成會

【基隆電話】[illegible]

比島戰線護國の華

嚴かに宜蘭市葬執行

【宜蘭電話】大東亞戰爭比島[illegible]に護國の華と散つた武勳の[illegible]一等兵[illegible]故小林[illegible]の二柱に對する宜蘭市葬は五月三十日午後一時[illegible]一等兵[illegible]の[illegible]に[illegible]、[illegible]代理、[illegible]守、[illegible]長を始め官民代表[illegible]の[illegible]嚴に執り行はれた、この日市內各戶は弔旗を掲げて[illegible]に[illegible]を[illegible]し[illegible]は各方面から贈られた[illegible]に[illegible]められ[illegible]の[illegible]があつて[illegible]主[illegible]を白し、次に[illegible]師、知事（いづれも[illegible]）官[illegible]守、[illegible]長、[illegible]長（[illegible]）[illegible]合支[illegible]（[illegible]代理）[illegible]長、[illegible]列者代表（[illegible]）等の弔詞があつて[illegible]助役[illegible]を[illegible]、次に[illegible]を[illegible]り[illegible]を終つたが、[illegible]

英靈の武勳を讃ふ

基隆市葬を嚴修

【基隆電話】大東亞戰爭に參加し南の戰野に[illegible]の武勳を建てて[illegible]國の華と散つた[illegible]出身の勇士故[illegible]部隊長[illegible]田[illegible]男君外五勇士の英靈を弔ふ基隆市葬は二十九日午後二時より[illegible]に於て[illegible]代理[illegible]田州[illegible]部長、[illegible]成司令官代理[illegible]部隊長、[illegible]臺北州知事代理[illegible]の[illegible]の[illegible]で[illegible]市民三百[illegible]、[illegible]遺族[illegible]列して[illegible]式により[illegible]に執り行はれた、[illegible]に[illegible]された[illegible]には各方面から贈られた[illegible]

供物が[illegible]られ[illegible]の明[illegible]に[illegible]の[illegible]入場[illegible]る中に午後二時[illegible]の[illegible]の[illegible]を[illegible]主の[illegible]に次いで[illegible]長、[illegible]代理、知事代理、基隆[illegible]成司令官代理などの[illegible]の[illegible]を讃へる[illegible]の[illegible]があつた後、[illegible]を讀り[illegible]が玉串を奉奠すれば[illegible]の[illegible]として[illegible]に滿ちる、[illegible]の[illegible]に[illegible]があつて午後[illegible]の[illegible]式典を終了した

繼走大會狀況 錄音放送

[illegible]御遺跡地巡り繼走大會は三十一日[illegible]雨天に[illegible]ならず決行されるが[illegible]

[illegible]臺北市公會堂[illegible]附近の[illegible]況を夫々錄音し[illegible]の[illegible]夜十時のニュースのあとにこれを[illegible]に向け放送を行ふ由

香華料をそつくり

國防獻金と社會事業へ

二十九日[illegible]司令部に寄せられた[illegible]金の中で特に[illegible]金[illegible]を[illegible]た[illegible]がある、[illegible]北[illegible]七[illegible]の[illegible]主人[illegible]太郎氏の[illegible]は[illegible]作戰に參加、輝く[illegible]功を建てて[illegible]の[illegible]死を遂げた勇士であるが、その[illegible]式に[illegible]各方面から二千三百圓の香華料が[illegible]られたに對し[illegible]父[illegible]太郎氏は

体は[illegible]に[illegible]國のために戰死してくれ、それで私は[illegible]です[illegible]の[illegible]は深く[illegible]るところであるが、これを[illegible]して私[illegible]すべきではないと考へますので……

と[illegible]の[illegible]し[illegible]に[illegible]として各[illegible]に[illegible]

[illegible]した、この[illegible]にみる[illegible]は一[illegible]から[illegible]されてゐる、またこの日[illegible]二十[illegible]年記念日を[illegible]へた[illegible]北[illegible]中[illegible]では[illegible]の[illegible]氏の名を以て金二百圓を[illegible]民[illegible]として獻金した

滿國功勞者慰靈祭

【東京電話】[illegible]功勞者の[illegible]は[illegible]十[illegible]の[illegible]の下に二十九日午後一時二十分から日比谷公會堂で[illegible]代[illegible]大臣として[illegible]夫人[illegible]れた[illegible]以下[illegible]子[illegible]乙[illegible]を始め[illegible]の[illegible]なつた功勞者の遺族十六百名を招待して[illegible]に[illegible]された、同[illegible]の[illegible]長を始め來賓として[illegible]、[illegible]、[illegible]の[illegible]大將、[illegible]中將、[illegible]大[illegible]、[illegible]保[illegible]の[illegible]名[illegible]が[illegible]官[illegible]を始め[illegible]の[illegible]列、[illegible]が[illegible]に[illegible]り、午後三時[illegible]、[illegible]き[illegible]十周年の[illegible]が[illegible]あつた

警報傳達に揭示板

島都防空の萬全策

[illegible]の[illegible]一旦[illegible]の際、[illegible]警報の[illegible]なる[illegible]が如何に重要であるかは言ふまでもない[illegible]であるが、去る二十二日の[illegible]に[illegible]る[illegible]の[illegible]を[illegible]とするに[illegible]三[illegible]の[illegible]と[illegible]めて[illegible]な[illegible]公[illegible]があり、[illegible]が如何に[illegible]の[illegible]が[illegible]し得られず、今[illegible]がわかり、臺北市では[illegible]を四十萬市[illegible]の[illegible]に[illegible]達する[illegible]に現在の[illegible]では[illegible]不可能なるに[illegible]公[illegible]の[illegible]と共に一般市[illegible]である

民自ら進んで[illegible]に[illegible]に努めるやう[illegible]してゐるが、更にこれが[illegible]を[illegible]する[illegible]各戶に[illegible]示の[illegible]を[illegible]させることとなつた、[illegible]は[illegible]七寸、[illegible]三寸、[illegible]は[illegible]力[illegible]なるべく[illegible]を利用して[illegible]で作成する[illegible]となつて[illegible]は「[illegible]」と[illegible]し、[illegible]は「[illegible]」と[illegible]し、[illegible]の[illegible]に[illegible]の[illegible]を[illegible]は[illegible]に[illegible]の[illegible]を[illegible]に[illegible]すの[illegible]の[illegible]に[illegible]させる仕組みである

臺北市區會長會議

臺北市では三十日午後二時から市[illegible]に[illegible]長會議を開催、[illegible]及び[illegible]の[illegible]、[illegible]の[illegible]、[illegible]に[illegible]き[illegible]の[illegible]が[illegible]、[illegible]時間[illegible]、[illegible]、チフテリア[illegible]、[illegible]、下[illegible]に[illegible]、[illegible]入[illegible]に[illegible]につき[illegible]より指示があつた

最優良乳兒本決り

男女各十五名を發表

今年の[illegible]乳兒が本決まりとなつた、[illegible]では[illegible]の一[illegible]として[illegible]した「子供の日」の一行事として第十三回乳兒[illegible]を[illegible]いたところ、[illegible]に於ては[illegible]人八十七[illegible]八[illegible]につき第一次[illegible]を[illegible]し、[illegible]の[illegible]第二次[illegible]を[illegible]へ、[illegible]部[illegible]名を[illegible]し來つたので、これらにつき[illegible]の[illegible]を[illegible]の[illegible]の[illegible]を[illegible]り[illegible]兒男女各十五名を決定した

男子之部 [illegible]

女子之部 [illegible]

[illegible]

で[illegible]された[illegible]名の乳兒に對し[illegible]の上[illegible]を[illegible]して最優良乳兒として男女各十五名宛の入選[illegible]を決定したが[illegible]の[illegible]結果を[illegible]するに一、[illegible]して男兒は[illegible]ケ月より八ケ月までで女兒は三ケ月より六ケ月までのものが[illegible]であつて[illegible]も[illegible]兒であつた、[illegible]以下の[illegible]は[illegible]によるべきであるといふ[illegible]を與へるものとして[illegible]大である、二、[illegible]の[illegible]の[illegible]なる[illegible]に[illegible]て[illegible]も[illegible]らない[illegible]に注目すべきは男兒と女兒との[illegible]が[illegible]しく[illegible]められたことと本島人[illegible]兒の水[illegible]が從來に比べ[illegible]しく[illegible]められて來たことである

名將の德を讃ふ

東郷元帥頌德祭

【東京電話】[illegible]東郷元帥[illegible]てからまもなく三十日の[illegible]に[illegible]東郷[illegible]の[illegible]の[illegible]に[illegible]されることになつた、本年から新[illegible]として[illegible]のほか、[illegible]、[illegible]等多[illegible]を[illegible]して[illegible]下に[illegible]ける[illegible]民に[illegible]の[illegible]を與へ[illegible]の[illegible]に[illegible]を[illegible]むる[illegible]である、[illegible]

新公園夏季音樂演奏

[illegible]本[illegible]日より[illegible]臺北市主催の下に新公園[illegible]に於て[illegible]が行はれるが、三十日の[illegible]曲目は左の通りである

一、行進曲「[illegible]」[illegible]二、[illegible]「[illegible]」四、[illegible]曲「[illegible]」五、[illegible]六、行進曲「[illegible]」七、[illegible]「[illegible]」八、[illegible]曲「[illegible]」九、行進曲「[illegible]」

賞與の一部國債支給

督府財務課運動開始

[illegible]の[illegible]化を[illegible]すべく[illegible]では[illegible]に[illegible]として[illegible]の[illegible]を[illegible]で[illegible]のため[illegible]と[illegible]して近く大々的に[illegible]するが[illegible]の[illegible]の[illegible]の一部は國債又は[illegible]で[illegible]する[illegible]

花蓮港の贈答品全廢運動

【花蓮港電話】花蓮港市[illegible]では[illegible]の[illegible]に[illegible]の[illegible]を[illegible]の[illegible]一般市民に[illegible]させる[illegible]を[illegible]て六月一日[illegible]から[illegible]に[illegible]

新竹州警察部 幹部異動發令

【新竹電話】[illegible]

[illegible]

[illegible]

香川縣人會

では三十一日午前十一時から臺北市[illegible]で[illegible]を催す

今夜の放送

[illegible]

三國志 （774）

（赤壁の卷）

吉川英治作　矢野橋村畫

風雛去る（二）

[illegible]

ミクローゼ　ホシ

能率増進　能率向上　能動性　能便
日本の既存ビルマ製品を作る[illegible]
生理的に優れた日本固有のビルマ製剤

農作物の害虫驅除に
殺虫劑
デリス根・除虫菊・油膩榛の
綜合效果
大阪市[illegible]　今津化學研究所

イマヅ
蠅取粉
家庭害虫
大猫牛馬
慰問袋に

ウテナクリーム
日本人の肌は非常にすぐれた皮膚である
この肌をより美しく健康に育てるためにウテナバニシングは理想的

クローバー
高級口紅
ホホ紅
クローバー・クリーム・クローバー・チーク

進軍ぶし
男は海の子
日本一の美聲が結びついた傑作
美ち奴　虎造

臺灣日日新報
本日夕刊共六頁

高松御差遣宮殿下新京驛に御安着

御出迎への皇帝陛下と御握手を交さる

セール石鹼みがき粉　十四錢　[illegible]田本店

高松御差遣宮殿下
關東軍司令部御成り
關東軍に優渥な令旨を賜ふ

【新京三十日發同盟】高松御差遣宮殿下には三十日午前十時三十分各隨員を從へさせられ御泊所御發、同十時卅八分關東軍司令部並に大使館に御到着、一旦軍司令官室に入らせられ同十時四十分より[illegible]梅津關東軍司令官兼駐滿大使より[illegible]んで軍狀並に諸般の狀況を言上、かくして十一時より高等官食堂において軍司令部職員並に在京部隊代表の整列の内に殿下には畏くも關東軍に對し優渥な令旨を賜ひ大東亞戰爭下北邊鎭護の重任を[illegible]ふ全關東軍は無上の光榮に感激した、梅津關東軍司令官は恐懼感激關東軍將兵を代表して謹みて奉答申上げた、かくて殿下には再び軍司令官室にて御小憩の御後、同十一時二十二分[illegible]御泊所に御歸還あらせられた

宮内府發表

【新京發同盟】宮内府發表（三十日午前十一時三十分）御差遣宮殿下には本三十日午前十時三十分御泊所御發同十時三十八分關東軍司令部日本大使館に御成り遊ばされ同十一時卅分御泊所に御歸還あらせられたり

皇帝陛下御正賓に
日滿御交驩の御宴

【新京三十日發同盟】御差遣宮殿下には三十日正午帝宮内勤民樓にて皇帝陛下を御正賓に日滿文武顯官らも陪食を許されいと盛大な日滿交驩の御午宴を催され[illegible]この日光榮の陪食を許された張國務總理以下文武顯官らは相次いで帝宮に參入、次いで梅津關東軍司令官兼駐滿大使參入して西便殿に御待ち申し上げる裡、御差遣宮殿下には[illegible]下を從へさせられて午前十一時五十五分參入、[illegible]門前にて御下車西便殿に入らせられた、この時皇帝陛下には吉岡侍從武官長以下を從へさせられ西便殿に[illegible]遣宮殿下には親しく[illegible]遊ばされて親しく御物語の御後、皇帝陛下を[illegible]

[illegible]

皇帝陛下には御[illegible]を交させ給ひ御[illegible]一[illegible]御交驩の御[illegible]に日滿一同の御姿そのまゝに拜されたと洩れ承はる、終つて西便殿にお[illegible]いて再び御物語に過させられたが皇帝陛下には[illegible]宮殿下に御暇遊ばされた[illegible]

皇帝、帝后兩陛下
兩陛下に御禮電

【東京發同盟】滿洲國皇帝、帝后兩陛下には兩陛下[illegible]し御差遣の高松宮殿下より[illegible]十日[illegible]天皇、皇后兩陛下へ御挨拶[illegible]

奉迎式に御台臨

【新京三十日發同盟】[illegible]

關東軍に令旨賜る

【新京三十日發同盟】關東軍司令部發表（三十日午前十一時三十分）[illegible]

臺灣憲兵隊司令部
守備隊司令部跡に
準備全く成り近く開設

大東亞戰爭下、[illegible]の重任に鑑み二十三日勅令公布を見た[illegible]兵令改正に基き新に設置されることとなつた臺灣憲兵隊司令部は人事その他諸般の準備全く成り近々中に臺北市旭町元[illegible]守備隊司令部跡に置かれることとなつたが、その第一代司令官に榮轉した石田乙五郎大佐（臺北憲兵隊長）[illegible]谷口[illegible]

至誠一貫重責遂行
石田臺灣憲兵隊司令官談

[illegible]

流言蜚語に關しては
寸毫も假借せず
谷口臺北憲兵隊長談

[illegible]

赤匪一萬の命旦夕
益子部隊の殊勳絶讃さる

【晉南前線〇〇三十日發同盟】[illegible]

姚門溝に猛攻開始
敵養動三大本據の一つ

【晉南前線〇〇三十日發同盟】[illegible]

陸鷲・衢州周邊の
敗殘部隊に銃爆撃

【〇〇基地三十日發同盟】[illegible]

皇奉第二回中央參與會終る
皇奉運動の新方途
熱烈眞摯なる答申

三十日府正廳に於て開催の皇民奉公會第二回中央參與會は正午一旦休憩に入つて出席者一同總督官邸に於ける午餐會に臨み、席上總督に[illegible]があり[illegible]より一同再び正廳會議に[illegible]民つて午前中の諮問事項に對する各參與の答申を[illegible]長は總務長官の立場に於て皇國內外の情勢と本島統治の方向に就き約二時間に亙り

第一　國際情勢に就て米、英[illegible]

その他の動向

第二　國內事情に就て生產力擴充計畫物資動員計畫[illegible]

[illegible]

北阿戰線俄然活潑化
獨伊軍・トブルクに攻撃集中

【ベルリン二十九日發同盟】[illegible]

全印一致新運動
ガンヂー翁實行の決意

【リスボン二十九日發同盟】[illegible]

ル大統領を怨嗟の聲
全米に敗戰主義事件續出

【ブエノスアイレス二十八日發同盟】[illegible]

馬來昭南方面
司法事務開始

【昭南市三十日發同盟】[illegible]

鐵道輸送中央協議會

【東京發同盟】[illegible]

米の遣印技術使節
工作は完全に失敗

【ベルン（スイス）三十日發同盟】[illegible]

米船攻撃さる

【リスボン二十九日發同盟】[illegible]

人事

▲橫山正幸氏（外務省）[illegible]
▲玉手亮一氏[illegible]
▲小林三郎氏（日本再生タイヤ社）[illegible]
▲木村[illegible]氏[illegible]
▲濱田竹男氏[illegible]
▲利岡喜久次郎氏[illegible]

二百三十億　貯蓄報國　貯へて戰はう

岡戸武平著　延元神樂歌　B6判三三四頁　一圓八十錢　〒十錢
富吉捕物帖
砲金の指輪
博多山笠
かみなり旗本
林子平傳
武道一貫記
孔雀屛風
虹を描く街
奧川書房

勤勞美　アモンパパヤ　薬用クレーム　にきび・そばかす　しみ取りに　を美しく一段と引立てる美肌を生む

新亞細亞　5月號
ドイツ醫學のマラリア克服
タイ語の月名
インド教と同教
大東亞時評
タイ國の經濟建設
南方農林物資の增產
東印度の教育政策
東南亞の電化計畫
セイロン島の交通
モロ族史觀
ソ聯と印度
嘉隆帝
滿鐵東亞經濟調查局

野球界　五月特大號　半額券　日本野球二枚付
近世名力士を語る對談
モンタヌスの相撲
現代相撲道批判
現代力士ノート
双葉山の歷史
春の六大學野球戰記
早慶野球戰雜記
日本野球戰評論
春季日本野球戰中間展望座談会
博文館

大本營海軍報道部編纂　大東亞戰爭と帝國海軍　定價八十五錢
海軍の大東亞戰史
世界戰史に比類なき豪壯無比の大海洋作戰の全貌、一億國民待望の不朽の名書こゝに完成す！我が無敵帝國海軍の燦たる戰果と眞相、我が海軍の大東亞戰史の第一輯愈々出づ！ハワイ海戰より印度洋作戰までの壓卷豪華版だ！各人必讀、家庭必備せよ
大本營海軍報道部課長　海軍大佐　平出英夫　米英艦隊擊滅　定價八十錢
增補版出來！
戰線文庫
興亞日本社

社説

貯蓄增强策に協力せよ
國民は最低生活線に堪へて

一

"貯蓄の奨勵"は戰爭經濟のためにも必要なるのみならず、今日戰時財政經濟の運營上絶對に必要であり、更に通貨の膨脹、物價の昂騰を抑制し、且つ物資勞力の節約のためにも不可缺のものである。若し今日消費購買の[illegible]一般購買力の吸收をおろそかにせんか所謂惡るべきインフレーションの惹起となり財政經濟の運行、國民生活の安定は失はれ、延いて戰爭の遂行上にも重大なる支障を來すことになるであらう。從つて政府當局は一億國民の[illegible]理解の下に貯蓄第一の協力事として[illegible]しくその勵行に努めてゐるのである。この點今日國民、貯蓄たるものが單に私經濟生活のための手段でなく戰爭に勝ち抜くためであることを[illegible]理解し國家の爲、大東亞戰爭完遂のため何が何でも貯蓄するの緊構へと貯蓄が要望されるのである。

二

[illegible]

三

[illegible]

戰時金融政策に協力
組合金融統制會設立さる

【東京電話】[illegible]組合金融統制會[illegible]三十日午前十時より[illegible]合中央金庫[illegible]設立を見た[illegible]

大東亞戰爭公債
"六億圓"の發行を決定

【東京電話】政府は六月一日大東亞戰爭公債六億圓を[illegible]日銀引受により發行する
發行價格　額面百圓に付九十八圓[illegible]
利率　年三分五厘
利子支拂期　三月一日及九月一日の二回
償還期限　昭和三十四年九月一日
[illegible]

戰時海運の機能發揮
機構整備した船舶運營會　臺灣支部山下氏の抱負

[illegible]

海南島産業開發へ
貿易機構の確立を見る

【海南島支局發】[illegible]
△輸移出部
第一部[illegible]
第二部[illegible]
第三部[illegible]
第四部[illegible]
第五部[illegible]
△輸移入部
第一部　石油、木材、石炭、セメント、[illegible]
第二部[illegible]
第三部[illegible]
第四部[illegible]
第五部[illegible]

金融統制團體令
施行規則　督府六月一日より實施

[illegible]

工業化學會春季大會

[illegible]

南方圏棉作に示唆
蟲害に強い品種の特性
府農試平間嘉義支所長談

[illegible]

一、系統　[illegible]
二、害蟲抵抗　[illegible]
三、收量　[illegible]
四、品種　[illegible]
五、熟期　[illegible]
六、其他の特性　[illegible]

東印度振興中央會
事業開發補助機關として發足

【東京電話】[illegible]

東亞道路技術會議終る

【東京電話】[illegible]

臺灣鐵鋼統制會設立
一日督府で方針を説明協議

[illegible]

愈よ統制會へ飛躍
臺灣鐵工業統制協會總會

[illegible]

配給道德確立
全國米穀商總會

[illegible]

甘蔗植付割當
臺中州の打合

[illegible]

作柄は良好
臺北州農試成績

[illegible]

計畫農業樹立
高雄州で協議

[illegible]

內地農村視察
高雄州農會計畫

[illegible]

明治製菓で新事業を開始

[illegible]

住宅五百戸建築
臺北建築信組近く着工

[illegible]

鹽糖常務更迭

[illegible]

臺灣テックス

[illegible]

臺灣食料品

[illegible]

商況（三十日）

株式

兜町前場況
物色買が一段昂揚

[illegible]

東京短期前場

[illegible]

東京短期日歩

[illegible]

東京銀行資株

[illegible]

東京國債前場

[illegible]

臺北織物販賣

[illegible]

強力メタボリン錠　賜

東寶　洗顔クリーム
美肌力と薬効作用の素晴しい
ToHo

私のソバカス取った話！
[illegible]

第一回決算報告　臺灣燃料機株式會社
[illegible]

第一回決算公告　鐵道砂利株式會社
[illegible]

第二回決算公告
[illegible]

第拾五回營業報告書　顏斗猛興業株式會社
[illegible]

第參回決算公告　大和興業株式會社
[illegible]

基隆造送株式會社
[illegible]

大東亞統計叢書
佛印統計書
第Ⅰ冊　第二部・地域別統計書（全十冊・各三〇錢）
蘭印統計書（一九四〇年版）
第Ⅱ冊　比律賓統計書　再版
佛印の鑛産資源
¥3.80

六月號　日の出
陸軍落下傘部隊の實戰記
インドはどうなるか
映画撮影の感激
（小説）眞珠灣　高田保
（小説）大いなる父　加藤武雄
（戯曲）ブキテマ高地　菊田一夫
（小説）日本の女の魂　堤千代
（小説）ベンガルの陽　大平陽介
（小説）善通寺物語　濱津茂和
（小説）ジャガタラお春　渡邊啓助
（小説）生活の樹　藤澤桓夫
海軍白衣の勇士座談會
スエズ運河とパナマ運河
新潮社

農業世界　五月號
大東亞戰爭と農本主義
別冊附録　隣組必携　農作物讀本
南方蔬菜を語る對談
博文館發行

六月號　キング
トレキシントンを撃沈した潜水艦乘員の手記
海底戰記
印度の內幕を語る座談會
敵空襲と我等かく戰へり
パレンバン奮戰實記
第三戰場
和泉守出廬
要塞地圖
愛情延期
地球の屋根
家

青木 加藤 兩飛行部隊に感狀
畏し勳功天聽に達す
馬來作戰成功の根基築く

【東京發同盟】戰史に不滅の一頁を飾るマレー上陸作戰に際り[illegible]船團航行掩護、[illegible]に終始[illegible]における敵航空隊擊滅に殊勳を樹てた青木、加藤兩飛行部隊に對して昨年十二月十[illegible]日南方方面陸軍[illegible]官寺内大將から夫々左の如き感狀が授與され、その勳功は畏くも　天聽に達し[illegible]三十日陸軍省より發表された、鬼神も哭く壯烈果敢なる兩飛行部隊の武勳は一億國民の感激の的となつてゐる

陸軍省發表（五月三十日午後四時）開戰劈頭マレー半島方面に對する山下兵團の上陸を掩護し且つ英空軍を擊碎し以てわが作戰成功の根基を築ける青木[illegible]加藤兩飛行部隊の武功に對し[illegible]南方方面陸軍最高指揮官より感狀を授與せられしが今般畏くも上聞に達せられたり

感狀

青木飛行部隊、加藤飛行部隊

右は十二月八日マレー方面飛行場占領の確報を待つことなく捨身の戰法を以て頑強下不完全なる飛行場に强行着陸し、泊地上空の直接掩護、敵航空基地に對する進攻など[illegible]の作戰を敢行し空地に於いて多大の戰果を收め以てよく船團における制空權の把握を確實ならしめたり、また十二月七日早天より[illegible]を目してマレー先遣兵團の船團航行を日沒時に至るまで確實に掩護しこの間敵機を擊墜してわが企圖を秘匿するなど陸軍航空部隊として空前にして且つ至難なる任務を完遂せり

右の武功は拔群なり

仍て茲に感狀を付與し[illegible]に布告す

[illegible]

加藤部隊長は[illegible]

船團掩護 制空權把握に挺身
現地○○部隊長歸還談

【東京發同盟】武勳上聞に達し[illegible]青木、加藤兩部隊の開戰當初における我が船舶護並びに泊地防空の活躍狀況について現地○○部隊長はこの程[illegible]三十日午後陸軍省記者室で[illegible]

兩部隊活躍狀況

[illegible]次の如く語つた

開戰前の防備　マレー方面[illegible]航空部隊最高指揮官が麾下各部隊に與へた命令は「○○部隊は山下兵團先遣部隊の[illegible]船團を掩護せんとす[illegible]部隊は別に指令する所により開戰前日右船團の掩護に任ずべし」と言ふ要旨のものであつた、青木部隊長は[illegible]作戰の指導要領をねつた[illegible]

[illegible]

十二月七日朝　から南部[illegible]は快晴に惠まれてゐたが、[illegible]

[illegible]

戰闘機部隊の　大部を[illegible]

[illegible]

離脱した敵機　はこの[illegible]

[illegible]

力と美の交響樂　寫眞①中等女子の愛國行進曲　②中等男子の懸垂運動　③厚生體操（全員）④國民學校女子の薙刀基本型

第一回全臺灣體操大會
五千の若人〝健民繪卷〟
力と美の祭典・薰風に躍る

健民運動の盛り高き力と美の交響樂──總督府主催、文教局、臺北州、臺北市共同後援の第一回全臺灣體操大會は[illegible]三十日午後二時から臺北市新公園で擧行された、この日[illegible]一中、二中、三中、[illegible]

五月の[illegible]

[illegible]

可憐な[illegible]

[illegible]

全演技[illegible]

[illegible]

銃後健民運動に邁進
〝體操は學校の獨占物に非ず〟
山本北商教諭談

[illegible]

總裁宮殿下奉戴式
畏くも優渥なる令旨を賜ふ
大日本婦人會

【東京發同盟】東久邇宮稔彦王妃聰子内親王殿下を總裁に推戴する大日本婦人會の總裁宮殿下奉戴式は畏[illegible]三十日午後二時から大東亞會館で[illegible]殿下の台臨を仰ぎ山内會長、三條副、水野、武藤、[illegible]各副會長を始め常務、[illegible]理事[illegible]一道三府四十三縣の支部代表本部[illegible]役員參列[illegible]して小泉厚相、橋田文相、[illegible]相、本田[illegible]五十名が參列盛大に擧行された、定刻午後二時殿下には[illegible]臺臨[illegible]

[illegible]

令旨

大日本婦人會結成せられ[illegible]

山内會長奉答

大日本婦人會ノ[illegible]

[illegible]

大日本婦人會長謹話

[illegible]

本會は全國婦人を其の會員として我國古有の婦道に基づき[illegible]

[illegible]

花蓮港市葬きのふ嚴修

[illegible]

胃腸に 照内末

[illegible]

竹南街で市葬執行

[illegible]

南方陸軍部隊宛
書籍、印刷物取扱ふ

[illegible]

本年度徵兵檢查
六月五日から實施

[illegible]

鄉軍西部聯分會長講習會
けふ第一日開催

[illegible]

[illegible]

國語常用强調運動
臺北州十三日（六月）より猛展開

[illegible]

南方建設に凱歌擧る
大塚陸軍囑託寄臺談

[illegible]

ジャングル　を[illegible]

萬歲々々を　[illegible]

南方建設は　[illegible]

青木部隊長の　[illegible]

シンゴラ泊地　の[illegible]

十四機を屠り　[illegible]

思はれる地點　へ[illegible]

榮養不良に　チアミチン錠　新發賣
1. 强力體軀の建設に
2. 脚氣・胃腸・疲勞に
3. 姙產婦・乳幼兒に
1日量2－4錠
製造發賣元 株式會社 黑田藥品商會 大阪・今橋二
販賣元 八洲商會 東京本町四

短艇・漕大會 きのふ基隆で
記念日

[illegible]

榮冠何處に？
臺北高商、臺大けふ決勝戰

[illegible]

明大先勝

[illegible]

東大勝つ

[illegible]

けふの運動

[illegible]

三澤元臺北高校校長葬式

[illegible]

ラヂオ

[illegible]

[illegible]

ダンタンは 風の妙藥
發賣元 東京市小石川區音羽町 信生堂藥舖
代理店 大阪市 大木合名會社
◇各藥店にて取扱ます◇

故陸軍伍長 動八等三ヶ島[illegible]儀[illegible]
[illegible]
父 三ヶ島仁[illegible]
外 遺族一同

會葬御禮 羽鳥重郞

父 鄭振芳儀豫而病氣加療中の處藥石效なく五月三十日午前四時死去致し候間此段辱知諸彥に謹告仕り候
追而葬儀は六月一日午後三時基隆市高砂劇場に於て相營可申候
基隆市[illegible]
男 鄭[illegible]
孫 [illegible]
親族總代 [illegible]
友人總代
宮崎武　田尻次　居川世　外山茂　大田俊　劉金榜
松黃　島[illegible]
清水枝　添來　中村鑄　三巻基　生源初　莊寺雄　都村夫　藥信　李拂吉　三泰　俊　忠　德　庶蔵　孫珪

本會社取締役社長鄭振芳殿病氣療養中五月三十日死去致候間此段謹告仕り候
基隆運送株式會社

づつうに サール

馬日辭典
馬來語教本
發行所 [illegible]
各書店へ

淺井病院
臺北市[illegible]
内科 小兒科 呼吸器病科 レントゲン科

御挨拶
元京町八洲庵事永らく休業中の處この程左記場所に移轉本日より開業致しましたから倍舊の御引立の上精々御利用を賜はり度御願ひ申上げます
臺北市西門町二ノ一四
電話三二三三番　八洲庵

島產ビール　高砂ビール
汗の一獻興亞の固め

ニュース
鐵の島コレヒドール陷落
本間將軍・マニラ入城
マンダレー攻略
海軍南方の新戰果
皇軍占領下の大島
其他 眞新しいニュース
本日 公會堂

熱帶と精神能率

質の低下は緊張度の缺如

臺大醫學部精神科中脩三教授の話

雄渾なる帝國南方作戰が赫々の戰果に輝き新しき大東亞の建設は今や東亞民族待望の裡に高らかに奏でられてゐる、この輝かしき大東亞共榮圏の盟主として南方經營に當る帝國の責務こそ非常に重大であり日本國民は指導者としてその重責を果すべく未知の使命達成に向つて邁進しなければならぬ、然し之が達成に當つて熱帶する南國は日本民族は果して氣候風土の異なる熱帶の地に入つて充分に精神機能を發揮し得るや否かは大きな問題と云ふべく、右問題に就て永年臺灣にあつて熱帶と精神能率に關する研究を續けて來た帝大醫學部精神科教授中脩三氏に研究の大要を訊けば次の如く語つた(寫眞は中教授)

熱帶と 精神機能に就いて溫度がある一定限度以上に上昇すると精神機能の低下を來すことは明かな事實である、反對に一定限度以下に低下しても精神機能は障碍を受ける、このことは特に熱帶の土着民に於てその傾向が著しい、日本人の最適溫度がどの位であるかと云ふことに就ては未だ確實な研究はない、西洋人のそれは攝氏二十度附近で濕度は五十%から六十%位であらうと云ふ、文政醫部教授力丸氏の內地人と本島人との比較研究では本島人の最適溫度が四度乃至五度高く、本島人は攝氏十八度では寒へ上つて仕事も何も出來なくなると云ふ

西洋人 が冬期精神機能がよいと云ひ、寒帶に文化興り熱帶に文化なし等と云ふが[illegible]假令へ零下は決して能率が上るものではないのであつて、寒風身を切る嚴な寒さであらう、室內に二十度位の暖房設備があつてこそ始めて精神機能が旺んとなり得るのであつて、一般に暖かいのが氣持がよく寒いのは不愉快なものである、攝氏三十五度の暑氣の中でも生活が出來るし努へることも出來るが攝氏十度の寒さでは火の氣なしには生活出來ない、春立つ頃の草木の芽生えを見ても判る樣に生物には暖かいのがよく寒いのが惡いのである吾々は徒らに西洋人の尻馬に乘つて寒帶文化說を振り廻すべきではない、然し乍ら生物は

環境の 產物であり、生物學的自然環境に左右されるものではないのであつて、氣候といふものの精神機能に對する影響は決して馬鹿出來ない、寒氣と同樣暑氣も又重大な作用をもつものである、寒氣は之を防ぐことが出來るが、暑氣は之を防ぎ得ないと云ふ說者もあるが、寒帶に於ける住宅と同程度の費用を熱帶住宅にもかけるならば(例へば冷房裝置)決して暑氣に防ぎ得ないものではない、アメリカ人は攝氏三十二度五分、濕度九十%で働くことは有害で一時間働くと十五脈搏が上昇し白血球が五十%以上多くなると云ふが日本人の耐熱性は西洋人に勝るものと思はれる、力丸氏の研究では臺灣居住日本人の感覺

溫度は 十九度五分、臺灣本島人の家は二十三度五分になつてゐる、內地人でも本島に長く住むと二十三度位が最適溫度となつて來るであらう、その證據には內地人は滯在後半と共に寒がりになる、臺灣で寒がりになるのだから暑氣に適應して來たものだと云ひ得るのである、同樣に昭南港でもダバオでも多年住み馴れると精神機能に對する最適溫度は三度や四度位は直ぐ上るものではないだらうか、そして昭南港に於ては日本人にとつて二十六度位が最適溫度となるであらう、斯かる根本的研究は

日本人 に關する限り未だ行はれて居ない、溫帶や寒帶で室內溫度を上下して精神能率を調べてもそれは決して當を得たものではない、又精神緊張の精神機能に及ぼす影響も決して見逃し得ない、西洋人でさへ緊張した條件の下に行はれる作業の場合には隨分高溫多濕(攝氏三十度、八十%)の時でも心身の作業能力は目立つて低下はしないといふ實驗報告もあるから、日本人はそれに四、五度の差があると考へて三十五度の暑氣の中でも精神が緊張すれば機能の低下はないであらう、このことは今時のマレー、ボルネオ、ジャヤ等の

作戰の 成果を見ても明かである、精神機能には又溫度の差と云ふものが大きな關係がある樣である、絶對溫度が高くともその差の著い所は精神的には好適な刺戟になると考へられてゐる、臺北地方の如く高溫、多濕ではあるが溫度の差が激しく、風があり、雨が多く皮膚を刺戟することの多い所は身體的には惡いが精神的には非常によいと考へられる、これは米國での研究ではあるが一年間の暴風雨の影響はその年の學業に關係すると云ふ

暴風雨 が多いのであるから[illegible]もう一つ[illegible]であるからよいであらう[illegible]熱帶に於ても[illegible]は山岳であり、二十五度位の溫度なれば何處にでも得られるであらう、赤道直下でもスコールの後には二十度位に下ることは稀ではない、又住宅の改善や今後の研究によつては如何なる暑氣の地と雖も之を二十五度位になし得るものと思はれる、精神緊張によつて精神能率の低下を防止し得ることは吾々の[illegible]に徵しても明かで、[illegible]は南方に於ける種々なる[illegible]の成績

熱暑の 間にあつて何らの精神能率の低下をも來さなかつた、かく考へると南方は日本人にとつて輝かしい新天地である、吾々は徒らに暑氣を恐れることなく科學の示す指針に從ひ、これに十二分の信賴を置いて南方へと飛躍すべきである

挺身隊員の家守る

山に咲いた軍國美談

【臺中電話】一家から三人の挺身奉公隊員を戰線に送り留守宅で六十の坂を越した老齡を鞭打つて娘孫達を督勵、子供達に後顧の憂ひなからしめ十分に御奉公出來る樣にと農耕に勵み銃後食糧增産に協力する高砂族老母をめぐる"山に咲いた美談"——能高郡タウツア社[illegible]大山オビンさん(六〇)は夫の死後間もなく又も長男タイモワリツ君が霧社事件で味方蕃として活躍陣歿しその後可弱い女手で一家を切盛し子女の教育に專念して來つたが、今回陸軍特別志願兵制度發表されるや杉山宗吉、杉山某の[illegible]子)大山保、暉村誠吉(大山保君[illegible]ホテルさんの夫)三君に率先[illegible]となつたが、[illegible]三人揃つて南方戰線に出征したその後オビンさんは娘と孫を督勵して畑を耕作しつつあり、山の軍國の母として郡民の生きた手本であると能高郡守から、この程郡で表彰、州では更に郡表彰[illegible]局民奉公運動を上申した

(寫眞は新校舍と清掃作業)

看護助手へ死の激勵

孫娘に說く愛國の至誠

【臺南電話】東石郡布袋庄新[illegible]五五番村孫子さんは曩れの看護助手として目下〇〇に於て第一線日本の勇士の看護に努めてゐるが、晴れの出發に際し捧かれた肉親の死の激勵譚がこの程明るみに出された……孫子さんが看護を終つて出征の時直病の床についてゐた祖父[illegible]付兵秀氏が同女を枕邊に呼び寄せ

「お前は御國のために働く身であるから戰地に行つたら兵隊さんの看護に全力を盡し他の人々に負けない樣しつかり働いて吳れ、之がお前の祖父に對する孝行なのだ、それを自分は信じて瞑目するから自分の事は心配せんでよい」と諭して死去したので孫子さんは祖父の死を秘めて勇躍出發、目下前線にあり祖父の遺言を守り一死奉公の念に燃えつつ勤務してゐるので關係者をいたく感激させてゐる

服裝改善に一役

新竹州下山の若い娘さん

【新竹電話】島民鍊成の皆々と擧がり山の河畔の愛國熱は火と燃えて新竹州下にも數々の美談、感激譚が描き出されてゐる、御國に直接御奉公出來るのは男子ばかりで女子は今のところまだ大きな御奉公が出來ないのは恥しい話だと大溪郡シスケイ社およびヨーハブン社兩蕃社でこの程うら若い娘さんたちが自發的に寄合ひ家事の餘暇を利用して洋裁を習び女子としてのたしなみを養ふとともに今後蕃社の服裝改善、文化の向上にも乘出さうと實行運動を申合せたところが肝腎の先生がゐないので芳賀キヨ子さん(二七)戶賀ヒサエさん(二〇)の兩名が代表となつて下山新竹市で洋裁講習を受けた上改めて山の友達に教へることとなり二十九日朝角板山教育所に協力方を依賴、三十日朝には同所から州理蕃課に指導方依賴があつたので係官も感激して早速適當なところを探すこととなつた、高砂族女子青年が自發的にかうした銃後文化生活運動に乘出したのは初めてで注目されてゐる

南方瀛の海 蘇澳郡蘇澳庄營蘇澳水浴場開き 南方瀛の出發點、水浴場では六月一日から開場する、當日は午前四時より同所に於て海開き祭りを盛大な儀式を擧行する豫定になつて居る

紙芝居試演會

【臺北電話】島民奉公會臺北州支部臺北市[illegible]では來る二日午後七時より高等臨江國民學校で紙芝居試演會を行ひ[illegible]の臨席を[illegible]することになつた

屏東水上競技

【屏東電話】屏東市奉公會主催の水上競技は六月二十一日午前十時より市營水泳場に於いて擧行される

臺灣川柳六月句會

臺灣川柳社では一日午後六時半から臺北市[illegible]町一ノ一[illegible]心氏宅で六月句會を開く、誰彼に[illegible]

臺中二高女落成

きのふ新校舍へ移轉

【臺中電話】總工費五十七萬圓を投じ臺中市樹林町に校舍新築中の州立臺中二高女は此程一部落成を見たので三十日新高校內假教室より新校舍へ移轉した、同校舍は木造建物で敷地面積は五甲步に上り教室特別教室其他二十一室、更に十八年度より講堂を新築する事となつて居り[illegible]に隣して居るので明るく靜かな場所だけに教育環境として理想地とされてゐる[illegible]落成と共に[illegible]高等田校長等頭に六職員全校生徒二百餘名を動員二十七日より轉居を開始し物ともせず搬出し[illegible]荒れてゐた校舍は瞬く間に整理され新校舍の[illegible]を遺憾なく發揮した(寫眞は新校舍と清掃作業)

規約を改正

高雄州タイヤー再生組合出發

【高雄電話】高雄州タイヤー再生業組合では從來由合と岡山兩工場とが所々の規約に依り運營して居た

刑事打合會

臺南州で犯罪檢擧防犯に萬全

【臺南電話】臺南州では三十日午前十時臺南署に臺南、新營、曾文、新化、北門、新豐の一署五郡の各刑事を招集打合會を開催、下條警務課長以下[illegible]出席し犯罪の檢擧防犯その他につき指示あり種々打合せ懇談をとげて午後一時過ぎ散會した

赤誠の獻金

軍司令部(三十日受)

國防獻金 一、〇〇〇圓 臺北州七星郡北投街六五ノ六佐野庄太郎[illegible]、[illegible]二五圓三五錢 臺北市[illegible]物仲買人組合、一〇〇圓 臺北市[illegible]町三ノ一〇大塚[illegible]、三〇圓 臺北市西門町二ノ五木村[illegible]、一〇圓 臺北市[illegible]、[illegible]一同、七五圓[illegible]、八二圓[illegible]、一〇〇圓[illegible]、一九六圓八二錢 彰化[illegible]

計 一、六八〇圓九八錢

恤兵金 三〇圓 臺北市[illegible]、三一圓六六錢 臺北市大橋町株式會社[illegible]、一五〇圓 臺北市[illegible]、一一六圓七五錢 同[illegible]、一〇圓 同[illegible]、五圓 同[illegible]

計 三九三圓四一錢

合計 二、〇七四圓三九錢

海軍武官府(廿九日受)

恤兵獻金 臺北[illegible]五〇圓、[illegible]奉公會一同二千九百三十九圓四十一錢、臺北石川[illegible]百圓、八堵國民學校職員兒童一同百圓

九軍神遺族弔慰金 [illegible]國民學校[illegible]百圓

大東亞戰戰捷日誌(五)

▲二、二二

(一)海軍航空部隊は二十一日ニユーギニア島北東沖上に航空母艦を含む有力なる敵部隊を發見敵戰鬪機群と猛烈なる空中戰を交へ敵航空母艦を大破大火災を生ぜしめ他の軍艦一隻にも大損害を與へ敵戰鬪機十機を擊墜せり、(二)マレー方面、陸軍部隊のシンガポール島要塞攻略戰にて收めたる戰果の主なるもの左の如し(1)俘虜、軍司令官以下將兵約七萬三千(將官約二十八名)なほ負傷兵約八千は市內主要ホテルに收容治療を加へつつ有り、(2)鹵獲品、大砲力要砲その他各種火砲約三百門、機關銃約二千挺以上、小銃約五萬挺、戰車(裝甲車を含む)約二百輛、各種自動車約一萬輛、自動二輪車約二百輛、彈藥大砲力要砲彈藥極めて多數、その他軍需資材多數、約一萬トン級汽船一隻、五千トン級タンカー三隻その他大小舟艇多數

▲二、二三

(一)陸軍航空部隊は二十一、二十二日の兩日に亙りジャヴァ島バイテンゾルグ、カリジャチ、バンドン、ビルマ領トングー、バセイン各飛行場を攻擊し米英蘭三十九機を擊墜擊破せり(二)(1)その後の詳報によればバリ島沖海戰の戰果左の通りなる旨判明せり、擊沈巡洋艦一隻、驅逐艦四隻(米二隻、蘭二隻)擊破、巡洋艦一隻、驅逐艦一隻大破(2)海軍航空部隊は二十二日チモール島附近に於て蘭驅逐艦ヤーンファンブラーケル型一隻、三千トン級汽船一隻を爆破炎上せしめ、一萬トン級商船一隻を擊沈せり

▲二、二四

(一)潜水艦は二十四日夜間米國カリフォルニヤ州沿岸の軍事施設を砲擊し大なる戰果を收めたり(二)大鳥島(ウエーキ島)海軍部隊は二十四日未明敵航空母艦一隻、巡洋艦一隻、驅逐艦[illegible]隻を發見同島陸上砲臺に直ちに之を砲擊し、巡洋艦一隻の艦尾に命中彈を與へ、又同方面に火災を生ぜしめ[illegible]驅逐艦一隻の艦甲板に爆彈を命中せしめたる外敵機五機を擊墜せり(三)陸軍航空部隊は廿四日前日に引續きジャヴァ島主要航空基地たるバンドン、チリリタン、バタヴィア各飛行場を反復强襲し敵機六十八機を擊墜破し米英蘭聯合空軍に對し致命的打擊を與へたり、本空襲間バタヴィヤ港を攻擊せる部隊は敵艦船群に猛襲を加へ驅逐艦一隻、三千トン級汽船一隻に多數の命中彈を與へたり(四)スマトラ方面陸軍部隊は二十四日夕パレンバンを完全に占領せり

▲二、二五

(一)さきに米英蘭聯合空軍の大半をスラバヤ方面に擊破せる海軍航空部隊は更に十八日以來二十五日までに蘭印全土並にニユーギニヤ島に殘存する敵機九十九機を擊墜破せり(二)西部ジャヴァ方面に航空殲滅戰を遂行中の陸軍航空部隊は二十五日更にカリジャチ飛行場を急襲し敵機三十七機を擊墜破せり

▲二、二七

(一)我が蘭印方面所在海軍主力は二十七日午後六時ジャヴァ海に於て蘭西南太平洋聯合艦隊主力を捕捉、激戰を展開、敵巡洋艦一隻、驅逐艦三隻を擊沈せり(二)海軍航空部隊は二十七日スラバヤ沖海戰に先だちバリ島附近洋上において敵特設航空母艦ラングレーを攻擊し命中彈六發を以て大火災を起さしめ、同艦陸上待機中の敵二十機および[illegible]敵飛行機全部を爆破炎上せしめると共に同艦に致命的損害を與へたり、同艦は間もなく左舷に大傾斜し速力急速に減退せるを認められたり、なほ附近海域航行中なりし大型飛行艇一機を擊墜せり

▲二、二八

(一)陸軍航空部隊は二十七日、二十八日の兩日に亙り西部ジャヴァ海の敵艦隊を索めて攻擊しスンダ海峽に於て三千トン級驅逐艦一隻を爆破炎上せしめるとともに巡洋艦二隻、驅逐艦一隻に各々直擊彈を命中せしめ之に多大の損害を與へたり、(二)陸軍部隊の一月九日以降同二十五日にわたる間における各方面の戰果左の如し(一)マレー方面 陸軍部隊は十八日バタム島及びテンゲ、ビンタン島に、それぞれ敵前上陸し、これを占領せり、昭南市の防衛施設[illegible]頗る順調に進捗し治安も亦急速に恢復しつつ有り、その戰果次の如し(1)[illegible]民政長官を始め各英人官吏は比較的多く殘留しありてわが接收業務を容易ならしめたり、(2)英人非戰鬪員一千二百二十名を收容、目下之に安全保護を加へつつあり、(3)通信[illegible]は多少破壞せられたるも[illegible]完全にして着々修理復舊しつつあり、但し無線局、放送局などは完全に破壞せられあり、(4)チャンギー[illegible]に監禁中の在留邦人八[illegible]名を救出保護せり、なほマレー在留邦人一千六百[illegible]名は一月七日印度に護送せられたるものの如し(二)ビルマ方面 陸軍部隊は二月十四日午後一時サルウィン河口の要衝マルタバンを攻略せり一月八日以降に於ける主なる戰果の左の如し(1)[illegible]、[illegible]二十三門、[illegible]二千七百[illegible]十八門[illegible]十二輛[illegible]火砲八十八門[illegible]、その他各種資材多數[illegible](2)[illegible]ラドイ、レグー、トングー、[illegible]ダレー、バセイン各飛行場を急襲して航空要塞を敢行しビルマ英空軍再建企圖を破碎しつつあり、この間の戰果擊墜破敵機六十四機なり(四)蘭印方面陸軍部隊は二月十五日バンカ島ムントクに上陸し、先に蘭印第二の油田地帶たるパレンバンに奇襲降下せる陸軍落下傘部隊と協同し同十七日油田地帶を完全に占領しその重要施設を確保、二十日同地附近の要地タンジユンカラン[illegible]を、二十二日パレンバン西南方百五十キロのラハト、廿四日ベンクレンを攻略し旬日を出でずして南部スマトラ要域大部の戡定を終了せり、パレンバン攻略戰、戰果の主たるもの左の如し(1)鹵獲品、戰車十六輛、火砲二十三門、[illegible]約五百輛、その他各種資材多數、俘虜約四百名たほムントク上陸部隊は十五日夕一部を以てパンカルピナンを占領せり(3)[illegible]ボルネオ島方面に作戰中の陸軍部隊は二月十日南東部ボルネオ州の首都バンジエルマシン[illegible]飛行場を占領確保、更に十六日シンタンを占領せり、(3)小スンダ列島方面に作戰中の陸軍部隊は二十[illegible]バリ島[illegible]デンパサル[illegible]を[illegible]を[illegible]、ジャバ、スマトラ方面に作戰中の陸軍部隊は二月二日アンボン島上陸[illegible]二十三日[illegible]を得たり、(三)[illegible]抑留中の邦人三十一名を救出せり、テリー[illegible]投降せり、[illegible]チモール州附近に於て[illegible]人約一千五百[illegible]にしてクーパン附近の上陸に成功せり、クーパン附近及びクーパン飛行場附近に於て[illegible]を[illegible]ル島テリー附近及びクーパンの附近に陸軍部隊に二十日未明チモール島方面に作戰せり(4)スンダ列島方面に作戰中の陸軍部隊は二十日未明[illegible]ジャヴァ方面、二月十九日米バイテンゾルグ、バンドン、カリジャチ、ダアタアビヤ、チリリタン各飛行場を連日爆擊せり、この間の戰果擊墜破敵機二百十八機なり(四)[illegible]北ボルネオ方面に作戰中の[illegible]は二月十[illegible]シンタンを占領し、(五)ビスマルク島方面[illegible]ニユーブリテン島に作戰中の陸軍部隊は二月上旬[illegible]ラバウル[illegible]スルミ[illegible]なり

愛の赤道(79)

竹田敏彥

都竹伸一畫

捷報の陣(三)

「さうかね……」

二郎も、千鶴子が涙を縮めてまで、むきになつて拒むのを見ると、やはり婦人の生理現象かと思ひ、

「ぢや、安心してゐよう……しかし、無理しちやいけないから、何も急いで、工場なんかへ出たくてもいいよ。生活費の足りないくらゐは、何とかして上げるから」

「有難うございますわ」

千鶴子は、かう言つて、眼を伏せたが、何故かほろりと、涙をこぼした。

「……………?」

二郎は怪訝に見て、何か言はうと思つたが、これも、さうした場合の彼女の[illegible]感傷から來る[illegible]と考へて、[illegible]に際つた。そして、

「ぢや、體にさはるといけないから、もう上つてお休み……僕も失禮するから」

「さうですか……」

「それから、明日も晩りに、鰻を出すから、何か欲しいものでもないかね」

「有難うございます。でも、晩に……」

「[illegible]ぐらゐは、のんでゐるんだらうね」

「ええ……」

「ぢや、失禮する」

「ほんとに、濟みませんでした」

千鶴子は、二郎が、店先を出るまで、上り口に立つて見送つてゐた。

その晩も、二郎が、家に戻つて夕飯をすませ、店から出てくると、もう八時半を過ぎてゐた。

二郎は、今夜の千鶴子の樣子が、やはり妙に氣になつてならなかつたが、居間に當られた[illegible]にこもつて、その日も華やかな戰果に湧かされた夕刊の記事を讀み耽つてゐると、こんな不審も、いつの間にか霧のやうに消えていつて、又しても、うつうとしてゐられない興奮に驅られるのであつた。

時計を見ると、九時ちようど前だつた。

「ぼつ〳〵ニユースの時間だ！」

二郎は、急いで主屋へ起つた。

晃子が、何處で手に入れたのか、カステーラで、恐縮と茶をのんでゐた。

「どうだ、一切れ」

恐縮がすすめた。

「有難うございます。これや珍らしいですな」

二郎は、遠慮なく頰ばつて、ラジオのスヰツチを切つた。

チン、チン、トン、チン——

ちやうど、戰況ニユースの前の、あの期待に充ちた、小氣味のいい音が聞えてきた。

「只今までの戰況をお報らせいたします」

アナウンサーの、彈んだ聲がした。

「帝國陸軍は、[illegible]同[illegible]のもとに、ヒリッピン、ミンダナオに敵前上陸をいたしました」

ミンダナオと聞くと、二郎の顏は、一そう輝つた。

「本日午後五時三十分、大本營陸軍部發表……帝國陸軍部隊は緊密なる海軍の協力のもとに、去る二十日未明、敵の抵抗を排除し、新たにミンダナオ島に上陸し、戰況有利に進展中なり……大本營陸軍部發表[illegible]は、今日午後五時三十分、このやうに發表いたしました。尚、上海二十日發同盟の電報によりますと米東亞司令部は二十日「日本軍は多數の日本人が在住するミンダナオ島に[illegible]、マニラ[illegible]では、米[illegible]、日本軍は〇〇に上陸し、午前中、激戰が展開されたと信ぜらる」旨發表したさうであります」

ミンダナオで多勢の日本人が在住する〇〇——それはダバオ以外に何處にあらう！

「皇軍が、ダバオに上陸した！そして、激戰が繰りひろげられてゐるのだ！」

二郎の心に、[illegible]のやうに浮かび立つた。

本邦唯一 胃腸によい イースト菌 純粹培養

胃腸病にむずかしくすりを用ひた時代もあつたが、今は、彼の微生物製「イースト」の如き酵素力で胃腸を强化する品が賞用される時代となつた。藥價二圓五圓 有名藥店デパート藥品部にあり

胃腸 榮養 妊婦 錠劑 わかもと

惡阻の豫防… 惡阻する時期に惡阻に惱む方も本劑を用ひますと症狀が輕くて[illegible]です(一日數錠)

映畫と演藝

國際館 新世界館 臺劇 大世界館 芳乃館 榮座 [illegible]

廣告 案內 媒

石堂 夜間 高級 女店 結婚 女事 香港 結婚 求家 家交 魚膘 礦山 濠洲 世界 大東 教育 國民 京染 のせ ラジオ 引越 喘息 帽子 冷藏 斷食 冷凍 [illegible]

わきが わきがにて永年苦んだ私が、發見した自宅療法で全治しました。お困りの方にお知らせします[illegible] 野村久子

ニキビを取る!自宅療法 南國社

模型飛行機及グライダー並ニ工作工具 多數御用命ニ應ズ 臺北市建成町二 寳山商會

化粧品と クスリ 東京堂藥局 台北市建成町三ノ一 電話六四〇五番

◎白生地 小濱、紋綸子、變織生地 ◎眞夏向 明石、銘仙、絹上布 入荷 臺北市東門市場前 光永吳服店 電話八三七四番

淨血强壯精力劑 病源療法 ドラミン 台灣總配給所・台北市大和町三ノ一

姓名學 名付ト改姓名 姓名學館 堀澤天久堂 臺北大和町二ノ五 電話八七六九

放送局選定 ラジオは中川 台北本町

發芽保證 花と野菜種子色々 品名指定御注文次第種子送ル カタログ送ラズ 臺北市西門町市場內 尙運堂物產店 振替臺灣五四〇七番

蓬萊炭 煉炭の御用命は 價百斤五円七拾錢 台北市兒玉町 電話六四〇八番 中和興業株式會社

夏 博多單帶 大島 新柄荷揃…… 臺北市末廣町市場前 丸吉吳服店 電話七七一五番

台北市京町 大正堂靴店 電話二一二四番

台北市京町三丁目 青帽洋服店 電話六五八六番

名藥處方 梅毒風濕骨痛リウマチス特效 九一四內服新藥 台北市永樂町 神農氏大藥房

高級夏向 洋服地荷揃 臺北市太平町三 大菊商行 電六六五七番

クリーニングは 太洋社洗濯部へ 台北市[illegible]町二丁目 電話二三五二番

胃腸ト榮養 萬適斯 發賣元 台北市綠町 保安藥房 粉 錠

メガネは和田 台北市大和町四ノ八 電話六一五〇番

高級 大山糊 發賣元 大山糊製造公司 臺北市太平町二丁目 三榮商會 電話三六八七番

おクスリの御用は 大平藥業株式會社へ 全藥品 台北市太平町[illegible] 電話[illegible]

長イ經驗 新シイ店 夏帶ト銘仙其他 大和町 辻惣吳服店 電話八五六二番

電話 電燈 電力 器具材料 請負工事 南五商會 台北市表町博物館通 電話[illegible]番

この一戰 何が何でもやり拔くぞ!

感冒に肺炎に 扁桃腺炎に氣管枝炎に

デルモライツの濕布は僅か卅分で獨特の生物學的作用により迅速に熱を下げ充血を去り痛みをとると同時に種々の病菌に對する免疫體と抵抗力を作ります

株式會社 藤澤友吉商店 大阪市東區道修町・東京市日本橋本町・奉天市大和區[illegible]

いるだけ溶いて使へる粉末 一〇〇瓦 一圓 二五〇瓦 二圓

三十分しっぷ藥 デルモライツ

粉化粧の仕方が變つた 明色クリーム ローション

今迄の化粧下クリームは皮膚と白粉の間に薄い膜をつくつて肌のツヤを消すので化粧が不自然な白さになりました。新しく出來たクリーム・ローションは粒子が細かく牛乳狀で、つけると直ぐしみこんで膜にならないのです。ですから白粉がピッタリ肌になじみ肌のツヤがそのまま現れて、とても生々したキヂからの樣な美しさになるのです。定價 八十六錢

田邊販賣品 下痢腸カタルに

吸着清腸の綜合效果!

下痢を伴ふ總ての腸疾患に用ひてその正確な毒素吸着作用と清腸作用により腸內の發生菌及び異常發酵素を速かに中和吸着す

大千粒・一圓三十錢

エキリジン錠

皮膚病藥

▲たむし ▲はたけ ▲水むし ▲かゆがり ▲ひぜん ▲いんきん ▲くさ ▲吹出物

シマズ、痛まず 痒みは止る!

皮下に吸收し易く、潛伏菌を殺滅するアスターが理想的!

價 35 60 1.00

アスター

丹平商會 各地藥店にあり